

## 国語教育が全学科の要

以前「6歳でSF童話大賞。その名も竹下龍之介くん」といふ記事が賑ひました。並居る大人を蹴落して大賞を獲得したのですから、その文の内容の勝れてゐる事は言ふまでもありません。自筆の文字を見ましたが、5、6年生も及ばない程立派な漢字かな混り文でした。ですから「天才幼稚園児」といふのが一般の世評ですが、私の経験から言へば、「龍之介くんが受けたやうな漢字教育を受ければ、誰でもあのやうになれる」のです。

幼児期の中に、龍之介くん位の国語力を付ける事が、これからの教育には何よりも必要な事だと思ひます。かうしてやれば小学校以降の国語の学習はもう要らないと思はれるかも知れませんが、さうではありません。国語の学習時間はいくらあっても、多過ぎる事は無いのです。あらゆる能力はこれから引き出され、これに依り発展するものだからです。

誰でも能力が身に付くと、その能力を使はずにはゐられないものです。使ひたくて仕方が無いのです。ですから、読書能力が付くと読書せずにはゐられなくなります。書物は人類最高の宝庫ですから、読めば読む程興味が増し、読みたい気持が一層強まるのです。かうして人間

はひとりでに磨かれて行くものです。

だから、極言すれば「教育は国語教育だけあれば良い」のです。これさへ成功すればあとはその人の個性に応じて好きな書物を読むのに任せれば良いのです。読みたくて読みたくてたまらない書物は、速く読めて且獲得できる物が多いのです。私は中学時代からさういふ書物の読み方をして来ました。学校でも、教科書の陰に好きな本を忍ばせて置き、読み耽ったものですが、それが今の私を作ってくれたのだと思つてゐます。

その時犠牲になった地理、歴史、生物など、今になって興味深く、書店で見付けては買って来て読んでゐる次第です。中学時代の知識が無くても少しも困らないのです。読みたい本を読む事を主にして読書する事が、学校教育においても考へられてほしいと思ひます。